

## 平成28年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立 桃山東小学校 )

## 1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	算数科を中心とした言語活動のさらなる充実	学習中発表したり話し合ったりすることは楽しいですか。
	家庭学習の習慣化	学校・学年・学級通信や懇談会・家庭訪問による家庭学習の啓発	家庭学習や宿題を進めていますか。
	読書の習慣化	朝読書・100冊読書の取組推進	読書ノートの活用・図書館の利用状況の把握
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	生活目標の設定・学校生活マナー向上の取組	学校や社会のルールを守っていますか。
	豊かな体験活動の充実	教科・領域を横断する児童の発達段階に応じた体験活動の充実	学校生活を楽しく過ごしていますか。
	挨拶をし、人を大切にする	児童会・教職員やPTA・地域の方々による声かけ運動「なかまの日」の取組	人を大切にしていますか。みんなと協力したり、仲良くしたりしていますか。
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発	長期休業明けの「生活調べ」
	体力向上	日常的に遊びや運動の機会を設定	各学級による「みんな遊び」・児童会主催のドッジボール大会など
独自の項目	小中一貫の取組	小中合同研修会の実施 中学校区「音楽のつどい」の実施	小中合同研修会の参加・中学校区での地域行事の参加
	情報発信の充実	タイムリーな情報発信とホームページの更新	学校ホームページのアクセス数



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年9月20日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
学校の学習はしっかりできているは、児童はだいたいできていくまで踏まえると94%の数値になっている	子どもは学校の勉強はしっかりできているという評価は94.3%あり、熱心に取り組んでいるとの自己評価であるが、家庭学習の項目では、87.0%になっている。学校の働き掛けも含め、受け身ではなく、自ら主体的に学習に向かい、積極的に本に親しむ機会を設定していると考えているが、児童も保護者の評価は43.3%で	学校では言語活動を大切に、取り組んでいるが、児童の自己評価では、自分の考えや意見を話しているという項目は低い。自分の考えを自信をもって話すことや、それを安心して聞いてもらえる場の設定など、取り組まなければならぬ。読書ノートの活用など、児童が意欲的に向かう工夫や読書環境の工夫など、さらに取組について検討
児童は半数以上ができていくと評価しているが保護者・教職員の評価は子どもの評価より低くなって79.8%の児童が休み時間に外で遊んだり体を動かしたりしているとの評価である。	責任を持って役割を果たすことや学校や家庭でのルールを守ることについては、よくできているではなく、だいたいできているというパーセントが高く、あまりできていないとの自己評価、家庭の評価が見られ	社会生活の中での自分の役割を意識し、責任を果たしていく自己有用感をしっかりと育てていくことを大切にしていきたい。
自分も人も大切にしているは、94.3%以上の児童がだいたいできているとの評価をしている。	児童・保護者・教職員共に人を大切にするということについてはほぼだいたいできているとの評価である	気持ちを持っていることに合わせて、行動で実践できる力を育てていくことが、さらに望まれる
⑭ 早寝・早起き・歯磨きができているは、79.9%の児童がだいたいできていると評価している。	家庭においてだいたいできているとの評価であるが、あまりできていないとの評価のパーセントもまだ	今後も家庭と連携する中で、子どもへの意識づけを図っていきたい。
79.8%の児童が休み時間に外で遊んだり体を動かしたりしているとの評価である。	休み時間に外で遊ぶことについては、あまりできていないとの児童の評価が約20パーセントみられ	お昼のロングの休み時間など子どもたちがしっかり遊びできる場を今後も検討していきたい。
小中連携の取組による合同事業の取組実施。年3回の授業研修会を実施	「小中の授業内容を参観し、忌憚のない意見交換をすることができた」という声が多かった。	事前検討及び研修終了後に意見交換会を設ける。
地域と連携した学校通信の配布。 アクセス数の増加	・ホームページについては、適宜学年ごとに更新しており、閲覧状況が伸びてきている。	・ホームページは、タイムリーな情報として学年からの発信を増やし学校の取組を保護者・地域に知ら



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月6日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・子どもの評価と・保護者・教職員評価については数値に差がある。こどもは学校と家では姿が違う様子があるので正直な自己評価をしている。読書の評価が大人と子どもに差がある。読み聞かせなど本を好きになる環境が大切である。	・読書の習慣化については、読書ノートの活用や朝読書など現在取り組んでいることを継続し環境を整えていく。子どもの自己評価については、大人の願いはあるが、子ども自身の頑張っているという自己評価を大切に取組を進める。本の読み聞かせなど本に親しむ環境を整えていく。
自分の意見を出せていないと評価している子どもがいる。この数値が学年を追って増えていかないようにすることが必要。全体の傾向だけでなく、学年ごとの評価を分析していくことも必要。	次回の評価分析においては、学年ごとの評価傾向をもとに分析し考えていく。学校運営協議会の活動と学校教育活動の関連付けを考え、ボランティアなど教育活動を支援できるよう働きかけていく。
ルールを守るということについては、各家庭において判断の基準が違う。多様な価値観の中で規範意識を育てていく必要がある。	今後学年ごとの分析と合わせて、できていないと評価している子どもに焦点を当てた分析も行っていく。ロング昼休みなど学校の取組と同様、積極的に体を動かす場を地域としても検討していく必要がある。
授業を見合ったりすることがお互いを理解する上で大切であり今後一緒にできる活動を検討していくことが大切。	連携を深める中で、「音楽のつどい」などの小中合同行事には、地域もふくめ協力していく。

# 平成28年度 学校評価実施報告書

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	算数科を中心とした言語活動のさらなる充実。桃山東モデルの校内研究授業による検証。	学習中発表したり話し合ったりすることは楽しいですか。
	家庭学習の習慣化	学校・学年・学級通信や懇談会・家庭訪問による家庭学習の啓発。桃山東家庭学習の手引きを活用。	家庭学習や宿題を進んでいますか。
	読書の習慣化	読書カードの活用、朝読書・100冊読書の取組推進	読書ノートの活用・図書館の利用状況の把握
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	生活目標の設定・学校生活マナー向上の取組。社会生活における役割意識・自己有用感の育成	学校や社会のルールを守っていますか。
	挨拶をし、人を大切にする	児童会・教職員やPTA・地域の方々による声かけ運動「なかまの日」の取組	人を大切にしていますか。みんなと協力したり、仲良くしたりしていますか。
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発。実践的態度の育成	長期休業明けの「生活調べ」学年ごとの評価分析 自分も人も大切にしている。
	体力向上	日常的に遊びや運動の機会を設定。ロング昼休みの活用	各学級による「みんな遊び」・運動大会の実施など。休み時間に外で遊んだり、体を動かしたりしている。
独自の項目	小中一貫の取組	小中合同研修会の実施 中学校区「音楽のつどい」の実施	小中合同研修会の参加・中学校区での地域行事の参加。



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月9日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
児童の自己評価は前期とほぼ変わらない評価であるが、内容としてはよくできているとの評価が伸びている。	子どもは学校の勉強はしっかりとできているという自己評価をしており、家庭学習の項目でも高い数値を示している。しかし、保護者の評価は低い評価になっており、期待も含め、基準が厳しくなっている。	児童の自己評価では、自分の考えや意見を話しているという項目は評価低く後期には数値を下げている。自分の考えを自信をもって話すことや、それを安心して聞いてもらえる場の設定など、校内の環境を再度見直すことが求められる。
児童は55パーセント以上ができていると評価しており、前期よりもよくできているとの評価は高くなっている。	学校では、積極的に本に親しむ機会を設定していると考えており、児童の評価も後期は伸びている。しかし、保護者においては評価と大きく差がみられる。	読書ノートの活用など、児童が意欲的に向かう工夫に加え家庭との連携も含め読書環境の工夫を図る。
子どもは75.7%がだいたいできているとの評価であるが、保護者は36.1%と数値を下げており、子どもの評価と大きく差がみられる。	学校では、積極的に本に親しむ機会を設定していると考えており、児童の評価も後期は伸びている。しかし、保護者においては評価と大きく差がみられる。	学校では、積極的に本に親しむ機会を設定していると考えており、児童の評価も後期は伸びている。しかし、保護者においては評価と大きく差がみられる。
児童は半数以上ができていますと評価しているが、よくできているとの自己評価が少し下がっている。	責任を持って役割を果たすことや学校や家庭でのルールを守ることについては、よくできているとの自己評価が少し下がっている。	社会生活の中での自分の役割を意識し、責任を果たしていくとともに、自分たちでルールを意識し、他者に流されことなく、実践していける自己意識をしっかりと育てていく事を大切にしていきたい。
児童は約70%と自己評価が伸びている。保護者の評価も後期が高くなっている。	責任を持って役割を果たすことや学校や家庭でのルールを守ることについては、よくできているとの自己評価が少し下がっている。	社会生活の中での自分の役割を意識し、責任を果たしていくとともに、自分たちでルールを意識し、他者に流されことなく、実践していける自己意識をしっかりと育てていく事を大切にしていきたい。
児童・保護者とも前期の評価とほぼ変わらない数値を示している。	家庭の中で生活スタイルを変えていく事は難しい面もあり、様々な形で必要性を伝えていく事が求められる。	よくできているとの自己評価が伸びていくよう今後も家庭と連携する中で、楽しい学校づくりに継続して取り組んでいきたい。
児童が休み時間に外で遊んだり体を動かしたりしているとの評価は前期よりも数値が上がっている。	今後も積極的に体を動かしのびのびと遊べる環境を考えていきたい。	大縄跳び・中間マラソンなど様々な企画をもとに子どもたちへ意識付けを図っていききたい。
小中連携の取組による合同事業の取組実施。	・合同テーマ別研修で中学校区での連携を深めることができ、系統的な視点につながった。	小中一貫の合同研究など連携した取り組みの実践を図っていく。



学校名( 桃山東小学校 )

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月17日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・子どもの評価と・保護者・教職員評価については数値に差がある。やはり大人は子どもへの期待が大きいので評価も厳しくなる。しかし子ども自身ができたことと自己評価していることが大切である。子どもの頑張りを大人は応援していけるようにしたい。	子どもの自己評価については、大人の願いはあるが、子ども自身の頑張っているという自己評価を大切に取組を進める。
あいさつは学年が進むにつれて評価が低くなってきている。これは成長に伴って当然の結果とも考えられるが、関わりがあると自然にあいさつも増える。地域・保護者が色々な関わりの場を持っていく事も大切である。自分の意見を出していないと評価している子どもがいる。もっと担任の先生とも話ができる時間的ゆとりや環境が大切である。この数値が学年を境で増えている。	様々な活動を通して地域全体でもあいさつのできる子どもを育てていく事が大切。また子どもが自分の思いを話せるよう、学校全体で、子どもの話を聞ける環境づくりに取り組んでほしい。
公園等遊び場所が制限される状況もある。もっと体を動かす楽しさを味わえる環境も必要。	ロング昼休みなど学校の取組と同様、積極的に体を動かす場を地域としても検討していく必要がある。
子どもの成長を学年を追って分析していく事も大切であり小中連携は大切。	連携を深める中で、小中合同行事には、地域もふくめ協力していく。

## 3 総括・次年度の課題

・全体を通して極端に低い評価は見られず、おおむねだいたいできているとの評価であったが、その中であまりできていない・できていないとの数値が10パーセント以上ある事には、今後でいねいに意識して取り組んでいく事が必要である。特に自分の意見が言えるとの項目や先生に相談するとの項目において低い評価がある事には再度点検が必要であると考える。

・規範意識についてはほぼできているとの評価であるが、今後は実践力を付けていく事が重要である。

・子どもは自己評価として頑張っているとの評価をしており、それを学力向上の結果と結び付けていく取組が求められる。